

水神Gシリーズ

クラウドでコスト低減

小松電機産業 浜田市で見学会

クラウドサーバーを使い、タブレット端末やパソコンで上下水道施設を監視制御する「やくも水神Gシリーズ」を開発した小松電機産業は15日、上水道、簡易水道、工業用水道施設を一括管理している島根県浜田市の美川浄水場で、「やくも水神Gシリーズ」による監視制御システムの見学会を開催。その後、会場を同社本社に移して、グローバルウォータージャパンの吉村和就代表による「これからの水ビジネス」をテーマとした講演会を開いた。講演会には約100人が出席した。



約100人の参加者を前に小松社長(中奥)があいさつ

浜田市は平成17年10月、旧浜田市と周辺3町1村が合併。人口は約6万人。県内第三の人口と第二の広大な面積を擁している。水道普及率は99・8%で、見学会場になった美川浄水場(日量2万2000立方メートル)は地下水を水源に市内の給水の75%をまかなう。

施設を見学した吉村代表は「浜田市の202カ所にあぶ水施設を単年度でやくも水神Gシステムにのせたい。上水道のみならず簡易水道や下水道施設もシステムに取り込んでいる。水インフラのコスト削減に大きく貢献できると思う。今後はその運転データや技術データを経営判断にどう活かすのかというご提案もお願したい」と同システムの今後の展開に期待を寄せた。

見学会の冒頭、小松昭夫社長は「水インフラを整備して社会問題を解決する。新しい市場を開拓して世界に貢献することで、平和の問題にも貢献できる」とあいさつした。続いて浜田市水道部の白瀬巨係長が水道事業の紹介と設備概要の説明を行った。

白瀬係長は、上下水道や簡易水道、工業用水道を一括して管理していること、プロポーザル方式でシステムづくりを公募した結果、「やくも水神Gシリーズ」に決めたこと経緯を説明。「従来の専用回線が無線になり、パソコン、携帯電話、スマートフォンで施設の監視操作ができるため、広大なエリアを少人数で管理できる。コスト削減、省力化を図り、施設の地図情報が得られるため山間施設へのアクセスも容易になった」などと特徴を紹介した。

「やくもGシリーズ」はクラウドコンピューティングを導入した小松電機産業の最新システム。すでに全国240自治体、6000カ所を採用されている。ベテラン職員の減少、管理の効率化、経費の節減、広域合併時代の新しい管理システムとして注目されている。



スマートフォンによる遠隔運転管理デモ